

# スポーツにおける個人の負けず嫌いがチームの動機づけ雰囲気 に及ぼす影響

高橋 由佳 (香川大学)

## 【緒言】

負けず嫌いはモチベーションの向上や継続的な努力を促進させるものと考えられる一方で、否定的に捉えられることも少なくない概念である。負けず嫌いに関する研究の多くは、負けず嫌いが個人にとって持つ意味を検討するに留まっている。他方、チームスポーツでは、チームメイトは共に戦う仲間でもあるが、時にレギュラーを争う競争相手にもなりうる。協力と競争が共存するチームスポーツにおいて、負けず嫌いはチームに対して肯定的な影響だけではなく、否定的な影響を与える可能性も考えられる。しかし、負けず嫌いがチームに及ぼす影響について検討した研究は見当たらず、未だ明らかにされていないようである。そこで本研究では、個人の負けず嫌いがチームに及ぼす影響について検討する。特に、チームの動機づけ雰囲気に及ぼす影響について検討し、中学運動部員を調査対象とすることから、望ましいチームの動機づけ雰囲気を醸成する上で、負けず嫌いの生徒への指導方略を見出すことを目的とする。

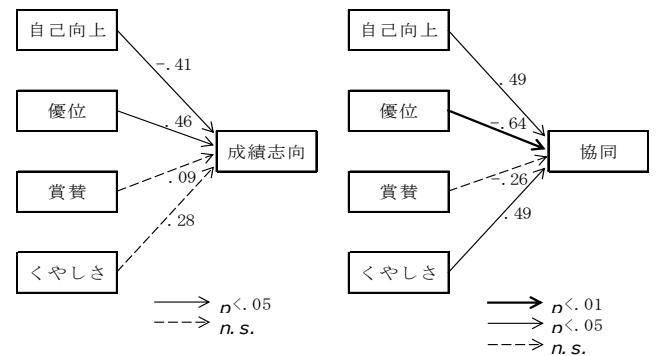
## 【研究方法】

本研究の調査対象者は、F 中学校のチームスポーツ系運動部活動に参加している生徒 53 名（バレーボール部：女子 14 名、野球部：男子 13 名、バスケットボール部：男子 17 名・女子 9 名）とした。調査の結果、全員から有効回答を得た。調査に際しては集合調査法を採用し、F 中学校の体育科教諭を通して本研究から依頼を受けた各運動部活動の顧問教諭が、部活動前後の時間を利用して調査を実施した。本研究の調査には質問紙法を用いた。質問項目は、①基本情報、②負けず嫌い尺度、③罰行動傾向を問う質問、④運動部活動における動機づけ雰囲気測定尺度の計 51 問で構成し、回答方法は 4 件法または 5 件法を採用した。

## 【結果と考察】

個人の負けず嫌いがチームの動機づけ雰囲気に及ぼす影響について重回帰分析を行った結果、個人の負けず嫌いの「自己向上」の側面が、チームの熟達雰囲気構成する「協同」に正の影響を及ぼすことが明らかになった。さらに、集団を自罰行動傾向の上位群と下位群、他罰行動傾向上位群と下位群の 4 つに分類し、同様に重回帰分析を行った結果、「他罰行動傾向上位群」において、個人の負けず嫌いの「優位」の側面は、成績雰囲気を構成する「成績志向」を高め、熟達雰囲気を構成する「協同」を低めるが、「自己向上」の側

面は、「成績志向」を低め、「協同」を高めるという影響が認められた。また、「くやしき」の側面も「協同」を高めていた。



部活動は、その意義から、熟達雰囲気のなかで実施されるべきであると考えられる。そして、熟達雰囲気を醸成するために必要であるのは、負けず嫌いの「優位」の側面を抑制し、「自己向上」の側面を伸ばせるような指導である。例えば、チーム内で能力を相対評価するのではなく、個人の努力や成長を評価する、結果ではなく内容に注目して、具体的に成果や課題を提示する、などの指導が考えられる。また、「悔しい」という感情を「自己向上」へ向けさせることも必要であろう。個人の負けず嫌いの「自己向上」の側面がチームで強く表出されれば、チームの雰囲気も熟達雰囲気に近づくと推察される。多くの場合、負けず嫌いはスポーツ選手に求められる資質の一つであると考えられているが、本結果からチームスポーツにおいては否定的に働く可能性も示唆された。従って、チームスポーツにおいては、負けず嫌いをチームの熟達雰囲気を育てるパワーとするために、「自己向上」の側面を伸ばす指導をしていく必要があると考えられる。

## 【研究のまとめ】

チームスポーツにおける個人の負けず嫌いは、チームの動機づけ雰囲気に影響を及ぼすと考えられた。そして、部活動にとって好ましいと考えられる熟達雰囲気を醸成するためには、チーム全体への指導や負けず嫌いのチームメイトへの指導において、負けず嫌いの「自己向上」の側面を伸ばし、「優位」の側面を抑制するような指導方略が必要であると推察された。

